

長崎総合科学大学

# シラバス (2018 年度)

共通科目系列情報・キャリア科目

---

(2018 年度入学生向け)

## 目次

情報基礎

情報基礎演習 A

パーソナルコンピュータの基礎

プログラミング基礎 (C)

プログラミング基礎 (VBA)

プログラミング基礎 I (C)

プログラミング基礎 I (VBA)

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度 

講義科目名称 : \*情報基礎 [JABEE] 2組

授業コード : 15142

英文科目名称 : Introduction to Information Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2	必修
担当教員			
三田 淳司			
1年次	全学部	週2時間	2018年度以降の入学生対象

授業概要	現代社会において必要な教養には、数十年前の教養にはなかった情報化社会に参加するために必要な情報リテラシーが含まれる。インターネットというインフラを基盤とするICT (Information and Communication Technology) は、利用者に多大な恩恵を与えたとともに大きな危険も孕んでいる。その危険を知り対応しつつ、安全安心に恩恵を享受するために必要な、基本的な作法、知恵、技術を身につけるようにする。 一般的な情報化社会における利用の他に、大学における学修では様々な場面で情報基盤環境を利用していくことになる。そのために大学が提供している環境についてしっかりと学んだ上で、利用方法だけでなく、利用時に注意しなければならないことも学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習支援情報環境と学術情報ネットワークの概要</li> <li>2. 学修支援システムについて</li> <li>3. ICTの利用と情報セキュリティ</li> <li>4. 学習支援情報環境のリモートサービス利用</li> <li>5. 長崎総合科学大学におけるメール環境と利用アカウントの説明</li> <li>6. 長崎総合科学大学におけるメール環境を利用したコミュニケーション</li> <li>7. ワードプロセッサによる文書作成</li> <li>8. レポートにおける図や表の利用と表現</li> <li>9. レポート形式文書 (サンプル) の作成</li> <li>10. データ処理におけるスプレッドシートの利用</li> <li>11. スプレッドシートにおける関数を利用したデータ処理</li> <li>12. スプレッドシートにおけるグラフを利用したデータの可視化</li> <li>13. プレゼンテーションソフトウェアの使い方と発表の方法</li> <li>14. 情報化社会の現状と危険性</li> <li>15. ICTの活用と倫理</li> </ol>
授業形態	講義、実技
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内情報基盤の利用ができるようになる。</li> <li>・学内でのインターネットの安全な利活用と利用して良い場面、いけない場面を理解する。</li> <li>・セキュリティ対策の基礎を知る。</li> <li>・著作権、知的財産権等に注意し、基本的な倫理を知る。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、文書などが作成できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの処理ができる。</li> </ul>
評価方法	講義への参加態度と、毎回の講義中に出题されるLMS上の課題(全クラス共通)の解答内容(最大70点)、学期末のペーパー・テスト(最大30点)によって評価する。 無断欠席については減点する。
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の配分によって100点満点で評価し、80点から100点を優、70点から79点を良、60点から69点を可、59点以下を不可として、優、良、可を単位取得とする。</li> <li>・欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は、その時点での最新版の購入を別途指示する。</li> <li>・LMS上で適宜資料を配布する。当然のことながら、著作権には充分注意すること。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度以降の入学生。</li> <li>・以前に情報基礎を受講し、単位が取得できなかった学生については、原則として再履修クラス(別シラバス)で履修すること。</li> <li>・下記の予習・復習の項目の内容を確実に実施すること。</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカウントを忘れた場合、講義に参加できない(教室にいても出席にならない)ので注意すること。</li> <li>・欠席の場合は欠席減点だけでなく、その回に出題された課題の点数も付かなくなるので注意すること。正当な欠席理由がある場合には、所定の用紙を用いて講義担当者に速やかに届け出ること。真に止むを得ないと認められる欠席理由に対しては、減点内容や課題の再提示等、配慮する場合もある。</li> <li>・公欠については、定められた手続きを取ること。</li> </ul>
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べ、必要に応じて各自のオンラインストレージへの保存、LMS上の書き込み等を行う。予習に必要な時間については、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p> <p>復習：講義内で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。自ら積極的に機会を見つけて本学情報基盤システムを利用し、機器を実際に使用して習熟に励むこと。</p> <p>設定や操作等については自宅コンピュータ、カフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、次回講義までに自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。</p> <p>復習に要する時間についても、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p>
オフィスアワー	三田:前期(講義期間中)水曜2限。メール、LMSで質問しても良い。
備考・メッセージ	開講のスケジュールが特殊であるため、予定表の確認を必ずすること。間違えても救済措置が一切無いので注意すること。 JABEE学習・教育目標 (1,5)

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

↓ 操作ボタン

講義科目名称 : \*情報基礎 3組

授業コード : 15143

英文科目名称 : Introduction to Information Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2	必修
担当教員			
劉 震			
1年次	全学部	週2時間	2018年度以降の入学生対象
授業概要	現代社会において必要な教養には、数十年前の教養にはなかった情報化社会に参加するために必要な情報リテラシーが含まれる。インターネットというインフラを基盤とするICT (Information and Communication Technology) は、利用者に多大な恩恵を与えるとともに大きな危険も孕んでいる。その危険を知り対応しつつ、安全安心に恩恵を享受するために必要な、基本的な作法、知恵、技術を身につけるようにする。 一般的な情報化社会における利用の他に、大学における学修では様々な場面で情報基盤環境を利用していくことになる。そのために大学が提供している環境についてしっかりと学んだ上で、利用方法だけでなく、利用時に注意しなければならないことも学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習支援情報環境と学術情報ネットワークの概要</li> <li>2. 学修支援システムについて</li> <li>3. ICTの利用と情報セキュリティ</li> <li>4. 学習支援情報環境のリモートサービス利用</li> <li>5. 長崎総合科学大学におけるメール環境と利用アカウントの説明</li> <li>6. 長崎総合科学大学におけるメール環境を利用したコミュニケーション</li> <li>7. ワードプロセッサによる文書作成</li> <li>8. レポートにおける図や表の利用と表現</li> <li>9. レポート形式文書 (サンプル) の作成</li> <li>10. データ処理におけるスプレッドシートの利用</li> <li>11. スプレッドシートにおける関数を利用したデータ処理</li> <li>12. スプレッドシートにおけるグラフを利用したデータの可視化</li> <li>13. プレゼンテーションソフトウェアの使い方と発表の方法</li> <li>14. 情報化社会の現状と危険性</li> <li>15. ICTの活用と倫理</li> </ol>		
授業形態	講義、実技		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内情報基盤の利用ができるようになる。</li> <li>・学内でのインターネットの安全な利活用と利用して良い場面、いけない場を理解する。</li> <li>・セキュリティ対策の基礎を知る。</li> <li>・著作権、知的財産権等に注意し、基本的な倫理を知る。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、文書などが作成できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの処理ができる。</li> </ul>		
評価方法	講義への参加態度と、毎回の講義中に出題されるLMS上の課題(全クラス共通)の解答内容(最大70点)、学期末のペーパー・テスト(最大30点)によって評価する。 無断欠席については減点する。		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の配分によって100点満点で評価し、80点から100点を優、70点から79点を良、60点から69点を可、59点以下を不可として、優、良、可を単位取得とする。</li> <li>・欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。</li> </ul>		
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は、その時点での最新版の購入を別途指示する。</li> <li>・LMS上で適宜資料を配布する。当然のことながら、著作権には充分注意すること。</li> </ul>		
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度以降の入学生。</li> <li>・以前に情報基礎を受講し、単位が取得できなかった学生については、原則として再履修クラス(別シラバス)で履修すること。</li> <li>・下記の予習・復習の項目の内容を確実に実施すること。</li> </ul>		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカウントを忘れた場合、講義に参加できない(教室にいても出席にならない)ので注意すること。</li> <li>・欠席の場合は欠席減点だけでなく、その回に出題された課題の点数も付かなくなるので注意すること。正当な欠席理由がある場合には、所定の用紙を用いて講義担当者に速やかに届け出ること。真に止むを得ないと認められる欠席理由に対しては、減点内容や課題の再提示等、配慮する場合もある。</li> <li>・公欠については、定められた手続きを取ること。</li> </ul>		
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べ、必要に応じて各自のオンラインストレージへの保存、LMS上の書き込み等を行う。予習に必要な時間については、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p> <p>復習：講義内で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。自ら積極的に機会を見つけて本学情報基盤システムを利用し、機器を実際に使用して習熟に励むこと。</p> <p>設定や操作等については自宅コンピュータ、カフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、次回講義までに自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。</p> <p>復習に要する時間についても、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p>		
オフィスアワー	火曜日2時限目。メール、LMSで質問しても良い。		

備考・メッセージ

開講のスケジュールが特殊であるため、予定表の確認を必ずすること。間違えても救済措置が一切無いので注意すること。

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度 

講義科目名称 : \*情報基礎【JABEE】5組

授業コード : 15145

英文科目名称 : Introduction to Information Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2	必修
担当教員			
三田 淳司			
1年次	全学部	週2時間	2018年度以降の入学生対象

授業概要	現代社会において必要な教養には、数十年前の教養にはなかった情報化社会に参加するために必要な情報リテラシーが含まれる。インターネットというインフラを基盤とするICT (Information and Communication Technology) は、利用者に多大な恩恵を与えたとともに大きな危険も孕んでいる。その危険を知り対応しつつ、安全安心に恩恵を享受するために必要な、基本的な作法、知恵、技術を身につけるようにする。 一般的な情報化社会における利用の他に、大学における学修では様々な場面で情報基盤環境を利用していくことになる。そのために大学が提供している環境についてしっかりと学んだ上で、利用方法だけでなく、利用時に注意しなければならないことも学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習支援情報環境と学術情報ネットワークの概要</li> <li>2. 学修支援システムについて</li> <li>3. ICTの利用と情報セキュリティ</li> <li>4. 学習支援情報環境のリモートサービス利用</li> <li>5. 長崎総合科学大学におけるメール環境と利用アカウントの説明</li> <li>6. 長崎総合科学大学におけるメール環境を利用したコミュニケーション</li> <li>7. ワードプロセッサによる文書作成</li> <li>8. レポートにおける図や表の利用と表現</li> <li>9. レポート形式文書 (サンプル) の作成</li> <li>10. データ処理におけるスプレッドシートの利用</li> <li>11. スプレッドシートにおける関数を利用したデータ処理</li> <li>12. スプレッドシートにおけるグラフを利用したデータの可視化</li> <li>13. プレゼンテーションソフトウェアの使い方と発表の方法</li> <li>14. 情報化社会の現状と危険性</li> <li>15. ICTの活用と倫理</li> </ol>
授業形態	講義、実技
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内情報基盤の利用ができるようになる。</li> <li>・学内でのインターネットの安全な利活用と利用して良い場面、いけない場面を理解する。</li> <li>・セキュリティ対策の基礎を知る。</li> <li>・著作権、知的財産権等に注意し、基本的な倫理を知る。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、文書などが作成できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの処理ができる。</li> </ul>
評価方法	講義への参加態度と、毎回の講義中に出题されるLMS上の課題(全クラス共通)の解答内容(最大70点)、学期末のペーパー・テスト(最大30点)によって評価する。 無断欠席については減点する。
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の配分によって100点満点で評価し、80点から100点を優、70点から79点を良、60点から69点を可、59点以下を不可として、優、良、可を単位取得とする。</li> <li>・欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は、その時点での最新版の購入を別途指示する。</li> <li>・LMS上で適宜資料を配布する。当然のことながら、著作権には充分注意すること。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度以降の入学生。</li> <li>・以前に情報基礎を受講し、単位が取得できなかった学生については、原則として再履修クラス(別シラバス)で履修すること。</li> <li>・下記の予習・復習の項目の内容を確実に実施すること。</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカウントを忘れた場合、講義に参加できない(教室にいても出席にならない)ので注意すること。</li> <li>・欠席の場合は欠席減点だけでなく、その回に出題された課題の点数も付かなくなるので注意すること。正当な欠席理由がある場合には、所定の用紙を用いて講義担当者に速やかに届け出ること。真に止むを得ないと認められる欠席理由に対しては、減点内容や課題の再提示等、配慮する場合もある。</li> <li>・公欠については、定められた手続きを取ること。</li> </ul>
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べ、必要に応じて各自のオンラインストレージへの保存、LMS上の書き込み等を行う。予習に必要な時間については、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p> <p>復習：講義内で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。自ら積極的に機会を見つけて本学情報基盤システムを利用し、機器を実際に使用して習熟に励むこと。</p> <p>設定や操作等については自宅コンピュータ、カフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、次回講義までに自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。</p> <p>復習に要する時間についても、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p>
オフィスアワー	三田:前期(講義期間中)水曜2限。メール、LMSで質問しても良い。
備考・メッセージ	開講のスケジュールが特殊であるため、予定表の確認を必ずすること。間違えても救済措置が一切無いので注意すること。 JABEE学習・教育目標(1,5)

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

↓ 操作ボタン

講義科目名称 : \*情報基礎 6組

授業コード : 15146

英文科目名称 : Introduction to Information Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2	必修
担当教員			
劉 震			
1年次	全学部	週2時間	2018年度以降の入学生対象
授業概要	<p>現代社会において必要な教養には、数十年前の教養にはなかった情報化社会に参加するために必要な情報リテラシーが含まれる。インターネットというインフラを基盤とするICT (Information and Communication Technology) は、利用者に多大な恩恵を与えるとともに大きな危険も孕んでいる。その危険を知り対応しつつ、安全安心に恩恵を享受するために必要な、基本的な作法、知恵、技術を身につけるようにする。</p> <p>一般的な情報化社会における利用の他に、大学における学修では様々な場面で情報基盤環境を利用していくことになる。そのために大学が提供している環境についてしっかりと学んだ上で、利用方法だけでなく、利用時に注意しなければならないことも学ぶ。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習支援情報環境と学術情報ネットワークの概要</li> <li>2. 学修支援システムについて</li> <li>3. ICTの利用と情報セキュリティ</li> <li>4. 学習支援情報環境のリモートサービス利用</li> <li>5. 長崎総合科学大学におけるメール環境と利用アカウントの説明</li> <li>6. 長崎総合科学大学におけるメール環境を利用したコミュニケーション</li> <li>7. ワードプロセッサによる文書作成</li> <li>8. レポートにおける図や表の利用と表現</li> <li>9. レポート形式文書 (サンプル) の作成</li> <li>10. データ処理におけるスプレッドシートの利用</li> <li>11. スプレッドシートにおける関数を利用したデータ処理</li> <li>12. スプレッドシートにおけるグラフを利用したデータの可視化</li> <li>13. プレゼンテーションソフトウェアの使い方と発表の方法</li> <li>14. 情報化社会の現状と危険性</li> <li>15. ICTの活用と倫理</li> </ol>		
授業形態	講義、実技		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内情報基盤の利用ができるようになる。</li> <li>・学内でのインターネットの安全な利活用と利用して良い場面、いけない場を理解する。</li> <li>・セキュリティ対策の基礎を知る。</li> <li>・著作権、知的財産権等に注意し、基本的な倫理を知る。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、文書などが作成できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの処理ができる。</li> </ul>		
評価方法	<p>講義への参加態度と、毎回の講義中に出題されるLMS上の課題(全クラス共通)の解答内容(最大70点)、学期末のペーパー・テスト(最大30点)によって評価する。</p> <p>無断欠席については減点する。</p>		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の配分によって100点満点で評価し、80点から100点を優、70点から79点を良、60点から69点を可、59点以下を不可として、優、良、可を単位取得とする。</li> <li>・欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。</li> </ul>		
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は、その時点での最新版の購入を別途指示する。</li> <li>・LMS上で適宜資料を配布する。当然のことながら、著作権には充分注意すること。</li> </ul>		
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度以降の入学生。</li> <li>・以前に情報基礎を受講し、単位が取得できなかった学生については、原則として再履修クラス(別シラバス)で履修すること。</li> <li>・下記の予習・復習の項目の内容を確実に実施すること。</li> </ul>		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカウントを忘れた場合、講義に参加できない(教室にいても出席にならない)ので注意すること。</li> <li>・欠席の場合は欠席減点だけでなく、その回に出題された課題の点数も付かなくなるので注意すること。正当な欠席理由がある場合には、所定の用紙を用いて講義担当者に速やかに届け出ること。真に止むを得ないと認められる欠席理由に対しては、減点内容や課題の再提示等、配慮する場合もある。</li> <li>・公欠については、定められた手続きを取ること。</li> </ul>		
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べ、必要に応じて各自のオンラインストレージへの保存、LMS上の書き込み等を行う。予習に必要な時間については、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p> <p>復習：講義内で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。自ら積極的に機会を見つけて本学情報基盤システムを利用し、機器を実際に使用して習熟に励むこと。</p> <p>設定や操作等については自宅コンピュータ、カフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、次回講義までに自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。</p> <p>復習に要する時間についても、各自が初等・中等教育で身につけた知識・技術により、コンピュータの操作時間自体が異なるはずであるので、一概には示せない。</p>		
オフィスアワー	火曜日2時限目。メール、LMSで質問しても良い。		

備考・メッセージ

開講のスケジュールが特殊であるため、予定表の確認を必ずすること。間違えても救済措置が一切無いので注意すること。

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

操作ボタン

講義科目名称 : 情報基礎演習 A 2組

授業コード : 15136

英文科目名称 : Exercse in Fundamental Information Technology A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1	選択
担当教員			
三田 淳司			
1年次	全学部		週2時間
授業概要	現代社会において必要な教養には、数十年前の教養にはなかった情報化社会に参加するために必要な情報リテラシーが含まれる。インターネットというインフラを基盤とするICT (Information and Communication Technology) は、利用者に多大な恩恵を与えるとともに大きな危険も孕んでいる。その危険を知り対応しつつ恩恵を安心安全に享受するために必要な、基本的な作法、知恵、技術について演習を通じて習熟していく。 一般的な情報化社会における利用の他に、大学における学修では様々な場面で情報基盤環境を利用していくことになる。そのためにコンピュータの基礎知識から、大学が提供している環境についてしっかりと学んだ上で、利用方法だけでなく、利用時に注意しなければならないことも学ぶ。特に、レポートや論文などの作成に必要なことについて演習を通じて習熟していく。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コンピュータの構成</li> <li>3. コンピュータにおける日本語入力</li> <li>4. 長崎総合科学大学の情報機器の使用</li> <li>5. ディスクドライブの利用</li> <li>6. ワードプロセッサによるレイアウトやスタイルを意識した文書作成</li> <li>7. 図や表の利用</li> <li>8. ワード文書に数式の挿入方法</li> <li>9. 大学の環境で実際にレポート形式文書の作成</li> <li>10. 大学におけるスプレッドシートの利用</li> <li>11. データの入力と体裁</li> <li>12. 関数の利用によるデータ処理基礎</li> <li>13. グラフの利用によるデータ処理基礎</li> <li>14. オンラインヘルプやネット検索等による必要な情報の獲得</li> <li>15. これまでのツールを複数使用し、実際に文書を作成する。</li> </ol>		
授業形態	演習		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの基礎知識を把握できるようになる。</li> <li>・学内での情報機器を利用できるようになる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、文書などが作成できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの解析ができる。</li> <li>・自己の目的のために、情報機器を総合的に使用できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの解析ができる。</li> <li>・自己の目的のために、情報機器を総合的に使用できる。</li> </ul>		
評価方法	講義への参加態度や講義中に出席する課題によって評価する。		
評価基準	上記の方法によって100点満点で評価し、80点から100点を優、70点から79点を良、60点から69点を可、59点以下を不可として、優、良、可を単位取得とする。 但し、演習科目のため、三分の二以上の出席がなければ成績評価をしない。		
教科書・参考書	適宜資料を配布		
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度以降の入学生。</li> <li>・情報基礎の講義で受講を指示された者、または講義担当者による機器操作についての審査を受け、受講が許可された者のみ受講可能。</li> <li>・初等中等教育で学習した情報機器の操作を忘れただけの者は受講対象者とししない。</li> <li>・この科目は、留学生、帰国子女等、日本語の情報機器の操作に慣れていない者、災害等様々な事情により初等中等教育で十分に情報機器に触れられなかった者を主な対象として、実際に機器に触れ使用する機会を多く取ることで、情報機器利用に習熟していくことを目的としているため、学生の情報機器の習熟度によって履修制限を行う可能性がある。そのような履修制限を行った場合は、科目担当者の履修指導に従うこと。</li> <li>・下記の予習・復習の項目の内容を実施すること。</li> <li>・演習科目であるため、毎回出席し、実際に授業に取り組むこと。</li> </ul>		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期受講登録変更期間に受講登録を行うこと。</li> <li>・受講が許可されなかった者は、前期受講登録変更期間に受講登録取り下げを行うこと。受講を許可されない場合でも受講登録をしたままだと、最終的に「不可」の判定となる。</li> <li>・講義途中で受講対象者ではないと判断された者は、受講取り下げ期間に確実に登録の取り下げを行うこと。受講登録をしたままだと、最終的に「不可」の判定となってしまう。</li> <li>・配布されるアカウントは適切に利用すること。USBメモリ等の外部記憶媒体の持参が望ましい。</li> </ul>		
予習・復習	授業の終わりに予習のための次回授業概要を示すので、配布資料やWeb検索により事前学習を行うこと。 また、学習した知識・技能を活用し、他科目のレポート作成などに取り組むことにより復習とすること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。		
オフィスアワー	三田:前期(講義期間中)水曜2限。		
備考・メッセージ	開講のスケジュールが特殊であるため、予定表の確認を必ずすること。		

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

操作ボタン

講義科目名称 : 情報基礎演習 A 5組

授業コード : 15139

英文科目名称 : Exercse in Fundamental Information Technology A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1	選択
担当教員			
三田 淳司			
1年次	全学部		週2時間

授業概要	現代社会において必要な教養には、数十年前の教養にはなかった情報化社会に参加するために必要な情報リテラシーが含まれる。インターネットというインフラを基盤とするICT (Information and Communication Technology) は、利用者に多大な恩恵を与えるとともに大きな危険も孕んでいる。その危険を知り対応しつつ恩恵を安心安全に享受するために必要な、基本的な作法、知恵、技術について演習を通じて習熟していく。 一般的な情報化社会における利用の他に、大学における学修では様々な場面で情報基盤環境を利用していくことになる。そのためにコンピュータの基礎知識から、大学が提供している環境についてしっかりと学んだ上で、利用方法だけでなく、利用時に注意しなければならないことも学ぶ。特に、レポートや論文などの作成に必要なことについて演習を通じて習熟していく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コンピュータの構成</li> <li>3. コンピュータにおける日本語入力</li> <li>4. 長崎総合科学大学の情報機器の使用</li> <li>5. ディスクドライブの利用</li> <li>6. フォントプロセッサによるレイアウトやスタイルを意識した文書作成</li> <li>7. 図や表の利用</li> <li>8. フォント文書に数式の挿入方法</li> <li>9. 大学の環境で実際にレポート形式文書の作成</li> <li>10. 大学におけるスプレッドシートの利用</li> <li>11. データの入力と体裁</li> <li>12. 関数の利用によるデータ処理基礎</li> <li>13. グラフの利用によるデータ処理基礎</li> <li>14. オンラインヘルプやネット検索等による必要な情報の獲得</li> <li>15. これまでのツールを複数使用し、実際に文書を作成する。</li> </ol>
授業形態	演習
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの基礎知識を把握できるようになる。</li> <li>・学内の情報機器を利用できるようになる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、文書などが作成できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの解析ができる。</li> <li>・自己の目的のために、情報機器を総合的に使用できる。</li> <li>・学内の環境を実際に使用して、データの解析ができる。</li> <li>・自己の目的のために、情報機器を総合的に使用できる。</li> </ul>
評価方法	講義への参加態度や講義中に出席する課題によって評価する。
評価基準	上記の方法によって100点満点で評価し、80点から100点を優、70点から79点を良、60点から69点を可、59点以下を不可として、優、良、可を単位取得とする。 但し、演習科目のため、三分の二以上の出席がなければ成績評価をしない。
教科書・参考書	適宜資料を配布
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度以降の入学生。</li> <li>・情報基礎の講義で受講を指示された者、または講義担当者による機器操作についての審査を受け、受講が許可された者のみ受講可能。</li> <li>・初等中等教育で学習した情報機器の操作を忘れただけの者は受講対象者としない。</li> <li>・この科目は、留学生、帰国子女等、日本語の情報機器の操作に慣れていない者、災害等様々な事情により初等中等教育で十分に情報機器に触れられなかった者を主な対象として、実際に機器に触れ使用する機会を多く取ることで、情報機器利用に習熟していくことを目的としているため、学生の情報機器の習熟度によって履修制限を行う可能性がある。そのような履修制限を行った場合は、科目担当者の履修指導に従うこと。</li> <li>・下記の予習・復習の項目の内容を実施すること。</li> <li>・演習科目であるため、毎回出席し、実際に授業に取り組むこと。</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期受講登録変更期間に受講登録を行うこと。</li> <li>・受講が許可されなかった者は、前期受講登録変更期間に受講登録取り下げを行うこと。受講を許可されない場合でも受講登録をしたままだと、最終的に「不可」の判定となる。</li> <li>・講義途中で受講対象者ではないと判断された者は、受講取り下げ期間に確実に登録の取り下げを行うこと。受講登録をしたままだと、最終的に「不可」の判定となってしまう。</li> <li>・配布されるアカウントは適切に利用すること。USBメモリ等の外部記憶媒体の持参が望ましい。</li> </ul>
予習・復習	授業の終わりに予習のための次回授業概要を示すので、配布資料やWeb検索により事前学習を行うこと。 また、学習した知識・技能を活用し、他科目のレポート作成などに取り組むことにより復習とすること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。
オフィスアワー	三田:前期(講義期間中)水曜2限。
備考・メッセージ	開講のスケジュールが特殊であるため、予定表の確認を必ずすること。

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

↓ 操作ボタン

講義科目名称 : プログラミング基礎 (C言語)

授業コード : 18258

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	必修 (選択)
担当教員			
劉震			
1年次	工学部 科目番号 18258	週2時間	機械工学コース必修
授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。		
授業計画	第1回：アルゴリズムの基本 第2回：アルゴリズムの評価 第3回：構造化プログラミング 第4回：流れ図記号 第5回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (1) 第6回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (2) 第7回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (3) 第8回：ガイダンス (C言語とプログラムの基礎知識) 第9回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算1 (変数) 第10回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算2 (定数) 第11回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算3 (順次実行) 第12回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算4 (演算子II-条件、比較演算子) 第13回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算5 (繰り返し) 第14回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算6 (型変換) 第15回：サンプルプログラムを読み解く…いろいろな要件が混ざっているもの		
授業形態	講義		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>		
評価方法	数回のレポート (50点) , 及び, 中間・学期末のペーパー・テスト (50点) によって, 総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。		
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優		
教科書・参考書	第1回講義時に指示する		
履修条件	工学部の学生 (総合情報学部は別の科目です) 総合情報学部開講科目「プログラミング基礎I」の単位取得者は受講できません。		
履修上の注意	工学部機械、電気電子 向け C言語のクラスです。(クラス①、③、⑦) 機械工学コースJABEE履修の学生は、[科目番号18252、シラバス番号182521]を受講すること。 工学部の船舶、医療、建築はVBAのクラスです。 前期受講登録期間に受講登録を終了すること。 受講希望者は第1回目の講義に出席すること。 クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。 機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。		
予習・復習	予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。 復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。 求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&エラーで、納得がいくまで試してみること。		
オフィスアワー	火曜日2時限目		
備考・メッセージ	C言語 のクラスです。工学部 機械工学コース 電気電子工学コース向けです。 機械工学コースは必修です。 この講義は2年前期「プログラミング応用」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認すること。 JABEE学習・教育目標 (4.1)		

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度 [操作ボタン](#)

講義科目名称 : プログラミング基礎 (C言語)

授業コード : 18252

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択 (選択)
担当教員			
劉震			
1年次	工学部 科目番号18252	週2時間	機械工学コース必修
授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。		
授業計画	第1回：アルゴリズムの基本 第2回：アルゴリズムの評価 第3回：構造化プログラミング 第4回：流れ図記号 第5回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (1) 第6回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (2) 第7回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (3) 第8回：ガイダンス (C言語とプログラムの基礎知識) 第9回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算1 (変数) 第10回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算2 (定数) 第11回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算3 (順次実行) 第12回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算4 (演算子II-条件、比較演算子) 第13回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算5 (繰り返し) 第14回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算6 (型変換) 第15回：サンプルプログラムを読み解く…いろいろな要件が混ざっているもの		
授業形態	講義		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>		
評価方法	数回のレポート (50点) , 及び, 中間・学期末のペーパー・テスト (50点) によって, 総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。		
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優		
教科書・参考書	第1回講義時に指示する		
履修条件	工学部の学生 (総合情報学部は別の科目です) 機械工学コースJABEE履修の学生は、このクラスで受講すること。 総合情報学部開講科目「プログラミング基礎I」の単位取得者は受講できません。		
履修上の注意	工学部機械、電気電子 向け C言語のクラスです。 工学部の船舶、医療、建築はVBAのクラスです。 前期受講登録期間に受講登録を終了すること。 受講希望者は第1回目の講義に出席すること。 クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。 機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。		
予習・復習	予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。 復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。 求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&エラーで、納得がいくまで試してみる。		
オフィスアワー	火曜日2時限目		
備考・メッセージ	C言語 のクラスです。工学部 機械工学コース 電気電子工学コース向けです。 機械工学コースは必修です。 JABEE学習・教育目標(4.1) この講義は2年前期「プログラミング応用」に続いています。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合がありますので、確認すること。		

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

↓操作ボタン

講義科目名称 : プログラミング基礎 (C言語)

授業コード : 18253

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming (C)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択 (必修)
担当教員			
劉震			
1年次	工学部 科目番号18253	週2時間	機械工学コース必修

授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。
授業計画	第1回：アルゴリズムの基本 第2回：アルゴリズムの評価 第3回：構造化プログラミング 第4回：流れ図記号 第5回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (1) 第6回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (2) 第7回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (3) 第8回：ガイダンス (C言語とプログラムの基礎知識) 第9回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算1 (変数) 第10回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算2 (定数) 第11回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算3 (順次実行) 第12回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算4 (演算子II-条件、比較演算子) 第13回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算5 (繰り返し) 第14回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算6 (型変換) 第15回：サンプルプログラムを読み解く…いろいろな要件が混ざっているもの
授業形態	講義
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	数回のレポート (50点) , 及び, 中間・学期末のペーパー・テスト (50点) によって, 総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優
教科書・参考書	第1回講義時に指示する
履修条件	工学部の学生 (総合情報学部は別の科目です) 総合情報学部開講科目「プログラミング基礎I」の単位取得者は受講できません。
履修上の注意	工学部機械、電気電子 向け C言語のクラスです。 工学部の船舶、医療、建築はVBAのクラスです。 前期受講登録期間に受講登録を終了すること。 受講希望者は第1回目の講義に出席すること。 クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。 機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。
予習・復習	予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。 復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。 求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&エラーで、納得がいくまで試してみる。
オフィスアワー	火曜日2時限目
備考・メッセージ	C言語 のクラスです。工学部 機械工学コース 電気電子工学コース向けです。 機械工学コースは必修です。 この講義は2年前期「プログラミング応用」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認すること。 JABEE学習・教育目標 (4.1)

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度


講義科目名称 : **プログラミング基礎(VBA)**授業コード : **18254**英文科目名称 : **Introduction to Computer Programming**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員	三田淳司		
1年次	工学部 船舶・建築・医療	週2時間	

授業概要	<p>本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。</p> <p>目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。</p> <p>前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コンピュータにできること---条件の明確化と手順の明確化、途中経過は1つにまとまらない、自分で答えを見つける。記述方法は多彩。</li> <li>3. 流れ図 --- 順番を入れ替えても大丈夫なこと、順番を入れ替えられないもの。</li> <li>4. 開発前の準備作業</li> <li>5. オブジェクト、制御構文、関数</li> <li>6. 変数と四則演算、色の取り扱い</li> <li>7. 制御構文の実際</li> <li>8. サンプルプログラムから流れ図への描き起こし</li> <li>9. プログラムの作り方 --- ゼロからの手順構成方法</li> <li>10. 実際のプログラム【1】 --- 期待する値と実際の値、式での洗い出し、テキストエディタ上でのプログラミング</li> <li>11. 実際のプログラム【2】 --- ある条件下でとり得る値は？ワークシートの追加と名前の変更、ワークシートへの値の書き出し、ワークシート間での値の転記、コピー&amp;ペーストと変数の修正</li> <li>12. プログラミング演習【1】 --- 名簿の作成、条件により文字色を変える</li> <li>13. プログラミング演習【2】 --- 成績判定、請求書作成</li> <li>14. プログラミング演習【3】 --- 最終課題(総合演習)</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>
授業形態	講義・演習
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	講義中に出される数回の課題(50点)及び学期末の試験(50点)によって、総合的に評価する。 なお、無断欠席は減点する。
評価基準	60点以上を合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優 欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。
教科書・参考書	第1回講義時に指示する。(※VBA関連は短期間で絶版になる本が多く、シラバス記述の時点で教科書指定しても講義実施時期に入手できるかどうか分かりません。講義開始時期前に確認の上で、第1回講義で指示を出します。悪しからずご了承ください。)
履修条件	工学部の学生 (総合情報学部は別の科目です) 総合情報学部開講科目「プログラミング基礎I」の単位取得者は受講できません。 ・端末数の制限から、受講可能人数を制限する場合があります。その場合は別の曜日の開講クラスで受講してください。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学部の船舶、医療、建築向けVBAのクラスです。三田担当。</li> <li>・工学部機械、電気電子は劉震先生の講義を受講してください。機械のJABEEは、指定クラスを受講してください。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了してください。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席すること。</li> <li>・クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。予習に必要な時間は30分程度が良いが、その分復習をきちんと行うこと。</p> <p>復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。</p> <p>設定や操作等については、自宅のコンピュータやカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。復習には120分程度を割り当てた方がよい。</p> <p>求めたい結果を得るには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&amp;エラーで、納得がいくまで試してみる。但し、ハマりすぎると時間がいくらあっても足りなくなるので、他の講義等も考えて時間配分に気をつけること。</p>
オフィスアワー	三田:後期(講義期間中)火曜2限。 メール、LMSで随時質問しても良い。
備考・メッセージ	VBAはMicrosoft Office シリーズで使われる言語です。本講義の対象はExcelのVBAで、複雑な処理の自動化や機能の拡張をする時に用います。 工学部 船舶工学コース、医療工学コース、建築学コース向けです。 この講義は2年前期「プログラミング応用」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認してください。 長崎総合科学大学では、メールアドレスによりOffice365の自宅利用が可能です。利用方法は入学式配布資料に記載されていますが、わからなければ情報科学センター事務室、または三田に問い合わせ下さい。

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

操作ボタン

講義科目名称 : **プログラミング基礎(VBA)** ※堀先生からは削除  
英文科目名称 : **Introduction to Computer Programming**

授業コード : 18257

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	必修(選択)
担当教員			
三田 淳司			
1年次以上	工学部	週2時間	クラス⑥ 科目番号18257

授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。 目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。 前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。
授業計画	<b>プログラミング基礎</b> 第1回：アルゴリズムの基本 第2回：流れ図記号 第3回：ジョブとタスク、流れ図 第4回：処理と分岐、条件判断(1) 分岐、二分岐、多分岐 第5回：処理と分岐、条件判断(2) 反復、列挙、繰り返し 第6回：整列・探索(1) 配列、線形探索、番兵法、二分探索法 第7回：整列・探索(2) 基本交換法、基本選択法 第8回：整列・探索(3) 基本挿入法、改良挿入法 第9回：中間テスト 第10回：Excel 基本、ファイル操作 第11回：VBA とは 第12回：Excel のセキュリティ設定 第13回：エディタ、モジュール、プロシージャ、実行 第14回：保存、読み込み、オブジェクトの呼び方 第15回：まとめ 第16回：定期試験(試験時間割要確認)
授業形態	講義
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	数回のレポート(50点)、及び、中間・学期末のペーパー・テスト(50点)によって、総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優
教科書・参考書	第1回講義時に指示する。(※VBA関連は短期間で絶版になる本が多く、シラバス記述の時点で教科書指定しても講義実施時期に入手できるかどうか分かりません。講義開始時期前に確認の上で、第1回講義で指示を出します。悪しからずご了承ください。)
履修条件	工学部の学生 (総合情報学部は別の科目です) 総合情報学部開講科目「プログラミング基礎I」の単位取得者は受講できません。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学部の船舶、医療、建築向けVBAのクラスです。クラス(②、④、⑥、⑧)</li> <li>・工学部機械、電気電子は(クラス①、③、⑦)を受講してください。機械のJABEEはクラス①を受講してください。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了すること。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席すること。</li> <li>・クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。</p> <p>復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。</p> <p>求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&amp;エラーで、納得がいくまで試してみる。</p>
オフィスアワー	特に無し。電子メールでの質問を随時受け付ける。(質問したいことを言葉で表す訓練です。) その後必要に応じて、時間と機材が空いている場所を打ち合わせましょう。
備考・メッセージ	VBAはMicrosoft Office シリーズで使われる言語です。本講義の対象はExcelのVBAで、複雑な処理の自動化や機能の拡張をする時に用います。 工学部 船舶工学コース、医療工学コース、建築学コース向けです。 この講義は2年前期「プログラミング応用」に続いています。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合がありますので、確認すること。

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度 講義科目名称 : **プログラミング基礎(VBA)**授業コード : **18259**英文科目名称 : **Introduction to Computer Programming**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2	選択
担当教員			
三田淳司			
1年次	工学部 船舶・建築・医療		週2時間
授業概要	<p>本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。</p> <p>目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。</p> <p>前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コンピュータにできること---条件の明確化と手順の明確化、途中経過は1つにまとまらない、自分で答えを見つける。記述方法は多彩。</li> <li>3. 流れ図 --- 順番を入れ替えても大丈夫なこと、順番を入れ替えられないもの。</li> <li>4. 開発前の準備作業</li> <li>5. オブジェクト、制御構文、関数</li> <li>6. 変数と四則演算、色の取り扱い</li> <li>7. 制御構文の実際</li> <li>8. サンプルプログラムから流れ図への描き起こし</li> <li>9. プログラムの作り方 --- ゼロからの手順構成方法</li> <li>10. 実際のプログラム【1】 --- 期待する値と実際の値、式での洗い出し、テキストエディタ上でのプログラミング</li> <li>11. 実際のプログラム【2】 --- ある条件下でとり得る値は？ワークシートの追加と名前の変更、ワークシートへの値の書き出し、ワークシート間での値の転記、コピー&amp;ペーストと変数の修正</li> <li>12. プログラミング演習【1】 --- 名簿の作成、条件により文字色を変える</li> <li>13. プログラミング演習【2】 --- 成績判定、請求書作成</li> <li>14. プログラミング演習【3】 --- 最終課題(総合演習)</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>		
授業形態	講義・演習		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>		
評価方法	講義中に出される数回の課題(50点)及び学期末の試験(50点)によって、総合的に評価する。 なお、無断欠席は減点する。		
評価基準	60点以上を合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優 欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。		
教科書・参考書	第1回講義時に指示する。(※VBA関連は短期間で絶版になる本が多く、シラバス記述の時点で教科書指定しても講義実施時期に入手できるかどうか分かりません。講義開始時期前に確認の上で、第1回講義で指示を出します。悪しからずご了承ください。)		
履修条件	工学部の学生 (総合情報学部は別の科目です) 総合情報学部開講科目「プログラミング基礎I」の単位取得者は受講できません。 ・端末数の制限から、受講可能人数を制限する場合があります。その場合は別の曜日の開講クラスで受講してください。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工学部の船舶、医療、建築向けVBAのクラスです。三田担当。</li> <li>・工学部機械、電気電子は劉震先生の講義を受講してください。機械のJABEEは、指定クラスを受講してください。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了してください。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席すること。</li> <li>・クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>		
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。予習に必要な時間は30分程度が良いが、その分復習をきちんと行うこと。</p> <p>復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。</p> <p>設定や操作等については、自宅のコンピュータやカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。復習には120分程度を割り当てた方が良い。</p> <p>求めたい結果を得るには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&amp;エラーで、納得がいくまで試してみる。但し、ハマりすぎると時間がいくらあっても足りなくなるので、他の講義等も考えて時間配分に気をつけること。</p>		
オフィスアワー	三田:後期(講義期間中)火曜2限。 メール、LMSで随時質問しても良い。		
備考・メッセージ	VBAはMicrosoft Office シリーズで使われる言語です。本講義の対象はExcelのVBAで、複雑な処理の自動化や機能の拡張をする時に用います。 工学部 船舶工学コース、医療工学コース、建築学コース向けです。 この講義は2年前期「プログラミング応用」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認してください。 長崎総合科学大学では、メールアドレスによりOffice365の自宅利用が可能です。利用方法は入学式配布資料に記載されていますが、わからなければ情報科学センター事務室、または三田に問い合わせ下さい。		

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

↓ 操作ボタン

講義科目名称 : プログラミング基礎I (C言語)

授業コード : 18265

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員			
劉震			
1年次	総合情報学部	週2時間	科目番号18265
授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。		
授業計画	第1回：アルゴリズムの基本 第2回：アルゴリズムの評価 第3回：構造化プログラミング 第4回：流れ図記号 第5回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (1) 第6回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (2) 第7回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (3) 第8回：ガイダンス (C言語とプログラムの基礎知識) 第9回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算1 (変数) 第10回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算2 (定数) 第11回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算3 (順次実行) 第12回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算4 (演算子II-条件、比較演算子) 第13回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算5 (繰り返し) 第14回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算6 (型変換) 第15回：サンプルプログラムを読み解く…いろいろな要件が混ざっているもの		
授業形態	講義		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>		
評価方法	数回のレポート (50点) , 及び, 中間・学期末のペーパー・テスト (50点) によって, 総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。		
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優		
教科書・参考書	第1回講義時に指示する		
履修条件	総合情報学部の学生 (工学部は別の科目です) 工学部開講科目「プログラミング基礎」の単位取得者は受講できません。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合情報学部知能情報コース向けC言語のクラスです。</li> <li>・総合情報学部マネジメント工学コース、生命環境工学コースはVBAです。。</li> <li>・但し学科・コースに関わらず、教科「情報」の教員免許取得希望者は、必ず知能情報コース向けC言語のクラスを受講してください。他のクラス(科目番号)では、教員免許取得条件に入りません。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了すること。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席すること。</li> <li>・クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>		
予習・復習	予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。 復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。 求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&エラーで、納得がいくまで試してみる。		
オフィスアワー	火曜日2時限目		
備考・メッセージ	C言語のクラスです。総合情報学部知能情報コース向けです。 この講義は2年前期「プログラミング基礎II」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合がありますので、確認すること。 JABEE学習・教育目標 (4.1)		

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度



講義科目名称 : プログラミング基礎I(VBA)

授業コード : 18266

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員	三田淳司		
1年次	総合情報学部 生命環境工学	週2時間	

授業概要	<p>本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。</p> <p>目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。</p> <p>前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コンピュータにできること---条件の明確化と手順の明確化、途中経過は1つにまとまらない、自分で答えを見つける。記述方法は多彩。</li> <li>3. 流れ図 --- 順番を入れ替えても大丈夫なこと、順番を入れ替えられないもの。</li> <li>4. 開発前の準備作業</li> <li>5. オブジェクト、制御構文、関数</li> <li>6. 変数と四則演算、色の取り扱い</li> <li>7. 制御構文の実際</li> <li>8. サンプルプログラムから流れ図への描き起こし</li> <li>9. プログラムの作り方 --- ゼロからの手順構成方法</li> <li>10. 実際のプログラム【1】 --- 期待する値と実際の値、式での洗い出し、テキストエディタ上でのプログラミング</li> <li>11. 実際のプログラム【2】 --- ある条件下でとり得る値は？ワークシートの追加と名前の変更、ワークシートへの値の書き出し、ワークシート間での値の転記、コピー&amp;ペーストと変数の修正</li> <li>12. プログラミング演習【1】 --- 名簿の作成、条件により文字色を変える</li> <li>13. プログラミング演習【2】 --- 成績判定、請求書作成</li> <li>14. プログラミング演習【3】 --- 最終課題(総合演習)</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>
授業形態	講義・演習
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	<p>講義中に出される数回の課題（50点）及び学期末の試験（50点）によって、総合的に評価する。</p> <p>なお、無断欠席は減点する。</p>
評価基準	<p>60点以上を合格とする。</p> <p>60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優</p> <p>欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。</p>
教科書・参考書	<p>第1回講義時に指示する。(※VBA関連は短期間で絶版になる本が多く、シラバス記述の時点で教科書指定しても講義実施時期に入手できるかどうか分かりません。講義開始時期前に確認の上で、第1回講義で指示を出します。悪しからずご了承ください。)</p>
履修条件	<p>総合情報学部の学生（工学部は別の科目です）</p> <p>工学部開講科目「プログラミング基礎」の単位取得者は受講できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・端末数の制限から、受講可能人数を制限する場合があります。その場合は別の曜日の開講クラスで受講してください</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合情報学部生命環境工学コース向けVBA(三田担当)のクラスです。</li> <li>・総合情報学部知能情報コースはC言語(劉震先生担当)です。</li> <li>・但し学科・コースに関わらず、教科「情報」の教員免許取得希望者は、必ず知能情報コース向けC言語のクラスを受講してください。他のクラス(科目番号)では、教員免許取得条件に入りません。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了してください。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席してください。</li> <li>・クラス分けと機材数の関係上、前期時点で受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。予習に必要な時間は30分程度で良いが、その分復習をきちんと行うこと。</p> <p>復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。設定や操作等については、自宅のコンピュータやカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。復習には120分程度を割り当てた方がよい。</p> <p>求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&amp;エラーで、納得がいくまで試してみる。但し、ハマりすぎると面白くなって時間がいくらあっても足りなくなるので、他の講義等も考えて時間配分に気をつけること。</p>
オフィスアワー	<p>三田:後期(講義期間中)火曜2限。</p> <p>メール、LMSで随時質問しても良い。</p>
備考・メッセージ	<p>VBAはMicrosoft Office シリーズで使われる言語です。本講義の対象はExcelのVBAで、複雑な処理の自動化や機能の拡張をする時に用います。</p> <p>総合情報学部向けです。</p> <p>定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認してください。</p> <p>長崎総合科学大学では、メールアドレスによりOffice365の自宅利用が可能です。利用方法は入学式配布資料に記載されていますが、</p>

わからなければ情報科学センター事務局、または三田に問い合わせして下さい。

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

University  
大学

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度 [操作ボタン](#)講義科目名称 : **プログラミング基礎I (C言語)**授業コード : **18267**英文科目名称 : **Introduction to Computer Programming I**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員			
劉震			
1年次	総合情報学部	週2時間	科目番号18267

授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。
授業計画	第1回：アルゴリズムの基本 第2回：アルゴリズムの評価 第3回：構造化プログラミング 第4回：流れ図記号 第5回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (1) 第6回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (2) 第7回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (3) 第8回：ガイダンス (C言語とプログラムの基礎知識) 第9回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算1 (変数) 第10回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算2 (定数) 第11回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算3 (順次実行) 第12回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算4 (演算子II-条件、比較演算子) 第13回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算5 (繰り返し) 第14回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算6 (型変換) 第15回：サンプルプログラムを読み解く…いろいろな要件が混ざっているもの
授業形態	講義
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	数回のレポート (50点) , 及び, 中間・学期末のペーパー・テスト (50点) によって, 総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優
教科書・参考書	第1回講義時に指示する
履修条件	総合情報学部の学生 (工学部は別の科目です) 工学部開講科目「プログラミング基礎」の単位取得者は受講できません。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合情報学部知能情報コース向けC言語のクラスです。</li> <li>・総合情報学部マネジメント工学コース、生命環境工学コースはVBAです。</li> <li>・但し学科・コースに関わらず、教科「情報」の教員免許取得希望者は、必ず知能情報コース向けC言語のクラスを受講してください。他のクラス(科目番号)では、教員免許取得条件に入りません。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了すること。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席すること。</li> <li>・クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>
予習・復習	予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。 復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。 求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&エラーで、納得がいくまで試してみる。
オフィスアワー	火曜日2時限目
備考・メッセージ	C言語のクラスです。総合情報学部知能情報コース向けです。 この講義は2年前期「プログラミング基礎II」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合がありますので、確認すること。 JABEE学習・教育目標 (4.1)

閉じる



## シラバス登録 プレビュー

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度

↓ 操作ボタン

講義科目名称 : プログラミング基礎I (C言語)

授業コード : 18272

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員			
劉震			
1年次	総合情報学部	週2時間	科目番号18272

授業概要	本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。
授業計画	第1回：アルゴリズムの基本 第2回：アルゴリズムの評価 第3回：構造化プログラミング 第4回：流れ図記号 第5回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (1) 第6回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (2) 第7回：流れ図を用いてアルゴリズムの表現 (3) 第8回：ガイダンス (C言語とプログラムの基礎知識) 第9回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算1 (変数) 第10回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算2 (定数) 第11回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算3 (順次実行) 第12回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算4 (演算子II-条件、比較演算子) 第13回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算5 (繰り返し) 第14回：サンプルプログラムを読み解く…数値の計算6 (型変換) 第15回：サンプルプログラムを読み解く…いろいろな要件が混ざっているもの
授業形態	講義
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	数回のレポート (50点) , 及び, 中間・学期末のペーパー・テスト (50点) によって, 総合的に評価する。なお、無断欠席は減点する。
評価基準	60点以上を合格とする。なお、講義回数の1/3以上欠席した者は得点にかかわらず不合格とする。 60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優
教科書・参考書	第1回講義時に指示する
履修条件	総合情報学部の学生 (工学部は別の科目です) 工学部開講科目「プログラミング基礎」の単位取得者は受講できません。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合情報学部知能情報コース向けC言語のクラスです。</li> <li>・総合情報学部マネジメント工学コース、生命環境工学コースはVBAです。</li> <li>・但し学科・コースに関わらず、教科「情報」の教員免許取得希望者は、必ず知能情報コース向けC言語のクラスを受講してください。</li> <li>他のクラス(科目番号)では、教員免許取得条件に入りません。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了すること。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席すること。</li> <li>・クラス分けの関係上、前期時点での受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>
予習・復習	予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。 復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。 設定や操作等についてはカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。 求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&エラーで、納得がいくまで試してみる。
オフィスアワー	火曜日2時限目
備考・メッセージ	C言語のクラスです。総合情報学部知能情報コース向けです。 この講義は2年前期「プログラミング基礎II」に続いていきます。 定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認すること。 JABEE学習・教育目標 (4.1)

閉じる

選択したシラバスのプレビュー画面です

2018年度



講義科目名称 : プログラミング基礎I(VBA)

授業コード : 18273

英文科目名称 : Introduction to Computer Programming I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員	三田淳司		
1年次	総合情報学部 生命環境工学	週2時間	

授業概要	<p>本講義は、前期の講義でコンピュータやキーボードに慣れた学生を対象に、演習も取り入れながらプログラミング言語の基本的な文法事項を理解させることを目的とする。</p> <p>目標は特定のプログラミング言語の習得ではなく、プログラミングに必要な基礎的概念とアルゴリズムの構築力を習得すること、コンピュータには何ができて何ができないのかを理解することである。</p> <p>前半の演習は例題を中心に行い、プログラミング・スタイルを修得していく。後半では応用問題に対するプログラミング技法について学習する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コンピュータにできること---条件の明確化と手順の明確化、途中経過は1つにまとまらない、自分で答えを見つける。記述方法は多彩。</li> <li>3. 流れ図 --- 順番を入れ替えても大丈夫なこと、順番を入れ替えられないもの。</li> <li>4. 開発前の準備作業</li> <li>5. オブジェクト、制御構文、関数</li> <li>6. 変数と四則演算、色の取り扱い</li> <li>7. 制御構文の実際</li> <li>8. サンプルプログラムから流れ図への描き起こし</li> <li>9. プログラムの作り方 --- ゼロからの手順構成方法</li> <li>10. 実際のプログラム【1】 --- 期待する値と実際の値、式での洗い出し、テキストエディタ上でのプログラミング</li> <li>11. 実際のプログラム【2】 --- ある条件下でとり得る値は？ワークシートの追加と名前の変更、ワークシートへの値の書き出し、ワークシート間での値の転記、コピー&amp;ペーストと変数の修正</li> <li>12. プログラミング演習【1】 --- 名簿の作成、条件により文字色を変える</li> <li>13. プログラミング演習【2】 --- 成績判定、請求書作成</li> <li>14. プログラミング演習【3】 --- 最終課題(総合演習)</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>
授業形態	講義・演習
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとはどのようなものか、を知る。</li> <li>・プログラムを作るには条件を明確に定めなければならない、ということを知る。</li> <li>・コンピュータにできないことを知る。</li> <li>・簡単なプログラムを読む努力ができるようになる。</li> </ul>
評価方法	<p>講義中に出される数回の課題（50点）及び学期末の試験（50点）によって、総合的に評価する。</p> <p>なお、無断欠席は減点する。</p>
評価基準	<p>60点以上を合格とする。</p> <p>60～69点 可、70～79点 良、80～100点 優</p> <p>欠席が講義回数の1/3を超える者については、得点に関わらず評価対象としない。</p>
教科書・参考書	<p>第1回講義時に指示する。(※VBA関連は短期間で絶版になる本が多く、シラバス記述の時点で教科書指定しても講義実施時期に入手できるかどうか分かりません。講義開始時期前に確認の上で、第1回講義で指示を出します。悪しからずご了承ください。)</p>
履修条件	<p>総合情報学部の学生（工学部は別の科目です）</p> <p>工学部開講科目「プログラミング基礎」の単位取得者は受講できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・端末数の制限から、受講可能人数を制限する場合があります。その場合は別の曜日の開講クラスで受講してください</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合情報学部生命環境工学コース向けVBA(三田担当)のクラスです。</li> <li>・総合情報学部知能情報コースはC言語(劉震先生担当)です。</li> <li>・但し学科・コースに関わらず、教科「情報」の教員免許取得希望者は、必ず知能情報コース向けC言語のクラスを受講してください。他のクラス(科目番号)では、教員免許取得条件に入りません。</li> <li>・前期受講登録期間に受講登録を終了してください。</li> <li>・受講希望者は第1回目の講義に出席してください。</li> <li>・クラス分けと機材数の関係上、前期時点で受講登録が無い場合、または講義第1回目を欠席すると、受講できない場合があります。</li> <li>・機材数の都合上、後期オリエンテーション時点で受講クラスを変更していただく場合があります。</li> </ul>
予習・復習	<p>予習：各回の講義で指示、提示される予習項目をもとに調べてくること。予習に必要な時間は30分程度で良いが、その分復習をきちんと行うこと。</p> <p>復習：講義で書き留めたメモをもとに、各回の内容をまとめること。設定や操作等については、自宅のコンピュータやカフェテリアの共用コンピュータ等を用いて繰り返し復習し、自分の知識、自分の技術として修得するように努めること。復習には120分程度を割り当てた方が良い。</p> <p>求めたい結果を得るのには、通常は複数の方法がある。唯一の答えは無いし、答えだけを覚えるのは全く意味が無い。トライアル&amp;エラーで、納得がいくまで試してみる。但し、ハマりすぎると面白くなって時間がいくらあっても足りなくなるので、他の講義等も考えて時間配分に気をつけること。</p>
オフィスアワー	<p>三田:後期(講義期間中)火曜2限。</p> <p>メール、LMSで随時質問しても良い。</p>
備考・メッセージ	<p>VBAはMicrosoft Office シリーズで使われる言語です。本講義の対象はExcelのVBAで、複雑な処理の自動化や機能の拡張をする時に用います。</p> <p>総合情報学部向けです。</p> <p>定期試験は通常の開講時限、教室とは異なる場合があるので、確認してください。</p> <p>長崎総合科学大学では、メールアドレスによりOffice365の自宅利用が可能です。利用方法は入学式配布資料に記載されていますが、</p>

わからなければ情報科学センター事務局、または三田に問い合わせして下さい。

閉じる